

1. 調査報告概要表

作成日 2007年12月15日

【評価実施概要】

事業所番号	(評価機関で記入) 3472501513
法人名	社会福祉法人 成寿会
事業所名	グループホーム田口
所在地	広島県東広島市西条町大字田口字東子729番地1 (電 話) 082 - 425 - 5757
評価機関名	特定非営利活動法人医療福祉近代化プロジェクト
所在地	広島県広島市安佐北区口田南四丁目46 - 9
訪問調査日	平成19年11月21日

【情報提供票より】(19年10月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 8 月 1 日
ユニット数	2 ユニット 利用定員数計 18 人
職員数	13 人 常勤 11 人, 非常勤 2 人, 常勤換算 13

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨ALC 造り
	3階建ての 2階 ~ 3階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷 金	有(円) 無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	3 名	女性	15 名
要介護1	3 名	要介護2	7 名		
要介護3	6 名	要介護4	1 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	56 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	下山クリニック、西条中央病院、中前外科、宗近歯科
---------	--------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

田園地帯の中に二年前に建てられた施設であり、ホームとしての活動が軌道に乗った状態である。ホーム長と職員はより良いホームにしようとの情熱が感じられ、昨年よりは多くの改善努力の内容がうかがえた。これからもこの情熱でもってより良いホームなるように取り組まれることを期待する。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>昨年は立ち上げて一年であり職員は慣れておらず不安な様子が見られたが今年は落ち着いてこの仕事はこうすればよいといった動作が見られる。グループホームとしての取り組みが出来上がりつつあるように感じられた。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の意見を真剣に聞き、それをホームの中に活かそうとする真剣な姿勢が見られた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>運営推進会議が立ち上がり地域の人にホームの内容の提供と地域の人々の声を聞く機会が増えた。職員が持つ高齢者介護の専門知識は地域の中で求められるものであり、これからはそこを活かした地域交流があるとよい。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>家族には月一度の状況報告や電話連絡があるが、医師にかかった情報など具体的な情報を提供することにより親しみやすくなると思われる。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>田園地帯に近いところのホームであり近所での買い物などすぐとなりとの付き合いは難しい。別棟に 交流館 が建てられており、これを活用した地域との交流が望まれる。(地域でのサロン活動に提供など)</p>

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は良く見えるように掲示してある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は会議の中でよく理念の話をしておられるが理念に伴う日常の介護のあり方を職員は身に着けるようにしたい。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域は田園風景が見られるところであり、散歩や買い物などのときの挨拶はしている。		別棟の交流館を地域の人に利用してもらう工夫があるとそこで入居者と地域の人との交流などができてよい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価時に比べ内容が充実してきたことがとても良い。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今立ち上がったところであり、施設状況の説明をし、地域の情報が得られているがこれから充実されることを期待する。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	包括介護支援センターの人は来ておられる。市とは介護保険の関係で話すくらいである。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	請求時に入居者の情報はできるだけ一緒に送るようにしている。変化があったときはすぐ電話連絡をしている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族は月に一度は来られるのでそのときには話しを聞くようにしている。		診療情報などを家族に見せ、家族からの話しを聞くようにする。
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	入居者は職員に対する思いが強く出るので異動後に新しい人と共に伝えるようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	カンファレンスが月に2回程度あるのでその場を利用した研修を行っており、市の研修には参加している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	行政の研修会には参加しているが地域のグループホームどうしの交流はすくない。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>グループホームは地域の中でのサービスである。ホーム内の2階と3階の人の交流があるのでこれをデイサービスの人や交流間に来る人との交流に広げられるとよい。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員と入居者の会話はよくされている。ドライブにもよく出かける。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>職員はカンファレンスの内容や医師の情報はよく理解して一人ひとりと接している。</p>		<p>職員は入居者に何かをしてあげるのではなく、一緒になった行なうといった行動が望まれる。</p>
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>職員が参加のカンファレンスと介護計画が作られている。この会議は職員の意見が反映している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月に一度の見直しはされている。また、介護計画に対する職員の意見は取り入れてある。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	一階にデイサービスを行っており、特浴の人はその風呂を利用している。		別棟の交流館を地域の人に利用してもらう工夫があるとそこで入居者と地域の人との交流などができてよい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族の意見を尊重しているが受診には職員が連れて行っている。また、協力医の体制もある。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現時点では制度としては整備されていないがこれから家族や協力医との連携で検討されることを望む。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者と職員は家族的な言葉で接しておられるが声が少し大きい。		プライドだけはいつまでも残るのでトイレへの誘導などは本人にわかる程度の声がよい。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者は一日の流れがつかめるようになっておられる。昼間はできるだけ共用空間に出ておられる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者がその日のメニューの書き出しや職員と一緒に準備、後片付けをしている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一日希望する時間に入浴できる。特浴はデイサービスの施設を利用している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	外食やカラオケと工夫が見られる。		広い共用空間をうまく利用して運動などをする。(29項参照)
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近所に歩いていける場所が少なく外出機会が少ない。		車での外出があり、買物に出かけるとき一緒に車で出かけるなどの方法がある。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	入り口に施錠があるが昼間はあけられることを期待する。		入居者はこのグループホームが自分の家であるようにする取り組みが必要である。また、ドアを開けると音などで職員に知らせるようなものがあるとよい。
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災の避難訓練を実施されている。		車椅子の人は自分では避難できない。職員が一体となって消防署を入れた防災マニュアル作りの活動を期待する。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量、便、尿、血圧、体温を毎日チェックして記録しておられる。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共用空間であり花などが飾られている。		入居者が見て歩けような絵や文書(生活訓のようなものや面白い言葉など)を飾っておくと見て歩くだけで頭の体操や運動になるのではないだろうか。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットなど個室で使用するものなどの持込がある。		